

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 学校経営	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・肯定的意見の全体平均%(H30→R1：生徒83.5→85.5、保護者86.6→88.0)。 ・学校教育目標・方針・内容及び学校充実感の肯定的意見（特に生徒）が増加。 ・学習指導、進路指導、生徒指導においても概ね9割の肯定的意見をいただき、特に学習指導の数値は昨年度を大きく上回っている。 ・YCKプロジェクトに対する生徒の認知度が更に高まった(93.7%)。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 地域に開かれた魅力ある高校づくり	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・企画、職員会議 ・地域連携による活力ある高校づくりワーキンググループ (WG)	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 学校の公開や積極的な情報発信を進めるとともに、学校運営協議会及び地域連携による活力ある高校づくり協議会の意見が反映された学校経営を行います。 ② 「普通科」、「理数科」それぞれに特色ある教育課程を編成により、地域人材や教育資源を活用した魅力ある教育活動に取り組みます。 ③ ふるさと教育の充実と飛騨市学園構想への参画により、課題解決に取り組む学習を推進します。	①③ 学校運営協議会委員、活力ある高校づくり協議会委員及び保護者による評価 ② 中学生の進路希望調査、1日入学参加者数、生徒・保護者による学校評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・地域への情報発信 (HP、Facebook、広報誌、新聞等) ・進学型単位制に伴う教育課程の改訂 ・「理数教育フラッグシップ推進事業」の実施 ・地域人材の有効活用と課題解決型学習の開発	① 吉城高校の良さや取組を伝えることができたか ② 進路やニーズに応じ様々な科目選択ができるしくみ ③ 理数教育の充実を図ることができたか ④ 生徒に課題解決能力を身に付けさせることができたか	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○進路やニーズに応じたコース制や選択科目、少人数教育が教育課程に浸透し、学習の個別最適化が図られつつある。 ○生徒の地域との関わりや変容により、地域から教育活動が肯定的に捉えられ、入学希望者数が増加している。 ○YCK活動、特別活動及び理数科課題研究等で培われた能力を発揮して、国公立大推薦入試（センターなし）の合格者が増えている。 ▲カリキュラム・マネジメントによる、新学習指導要領への円滑な移行。 ▲コミュニティスクール（学校運営協議会制度）の機能強化による、学校と地域が協働した魅力ある高校づくり。	
12 来年度に向けての改善方策案	・社会に開かれた教育課程を実現する中で、求める地域人材像等から、育成を目指す資質・能力を明らかにし、教科等横断的な取組により学校教育活動全体を通して育成する。 ・学校運営協議会や飛騨市学園構想を通して、地域での学びの環境を更に整備することで、生徒の進路実現、求められる地域人材の育成を目指す。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月7日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・地域に開かれた学校としての実践活動がYCK活動をはじめとして、多くの成果を得、何よりも生徒一人一人の達成感、成就感を醸成した。 ・地域でも、行かせたい学校になっていると思う。 ・今後、新学習指導要領への移行が吉城高校においては極めて円滑なものになると思われる。何故ならば既にその基盤がYCK活動等により盤石に醸成されているからである。 ・吉城高校のYCK活動等の取組が、岐阜県内の色々な高校に影響を及ぼしていくことを期待している。
---

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 教科指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「学習指導」全般で肯定的な意見がさらに増えた。生徒一人一人の能力に応じた授業など、きめ細かな学習指導に対して肯定的な意見が多かった。 ・「総合的な探究の時間」等の探究活動の推進は改善された。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 授業改善と学習指導の充実に努め、確かな学力を育成する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・各学年会及び教科会 ・公開授業や研究授業、教員研修会 ・教育課程委員会及び学習指導委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 基礎的基本的な知識・技能の習得を図るとともに、アクティブラーニングを推進し思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、新しい価値観を創造する力を身に付けさせる。 ② 少人数学級や習熟度別授業、進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援を行う。 ③ ICTを活用した学習活動を充実させる中で、公開授業、研究授業を計画的に行い、積極的な授業改善を進める。	① 生徒による授業評価、教員相互の評価 ②③ 授業アンケート、卒業生アンケートの評価、生徒・保護者等による学校評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・研究授業や公開授業による指導力向上 ・アンケート・調査による学習活動の点検と改善 ・初期指導による高校での学習活動の定着 ・各分掌における到達目標の設定と評価 ・各教科の授業改善	① 授業は改善されたか ② 家庭学習時間が確保されているか ③ 個に応じた学力は身に付いたか ④ 教育活動は円滑に行われているか ⑤ 生徒は満足しているか	A (B) C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○カリキュラム・マネジメントが年々進化する中で、普通科の進路希望別クラス編成が3年目となり、総合コース・学び探究コースそれぞれの教育課程で、生徒は概ね意欲を持って学習に取り組んでいると思われる。 ○現1年生から進学型単位制高校へ移行し、さまざまな進路希望に対応できるよう「学校設定科目」を含む新しい教育課程の実践がスタートした。 ○総合的な探究(学習)の時間での「探究のプロセスを学ぶ講座」や「地域の大人と語る会」の2年生普通科実施など新たな試みにより、少しずつではあるが主体的な学びの場を増やすことができた。 ▲授業評価の作成や科目横断授業の設定が今後の本校の課題である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・ICT機器による授業については、公開授業や他校の取組も参考にしながら、ICT機器によるデメリット部分の改善も含めて、PDCAを継続したい。 ・生徒が「やらされる学習」から「主体的な学び」へと変わることのできる、教科や総合的な探究の時間の仕組みを構築したい。 ・新学習指導要領(令和4年入学生より学年進行)のカリキュラム作成がはじまったばかりであり、生徒や保護者はもちろんのこと、地域の方々に応援していただける教育課程を作成したい。授業評価や科目横断授業(学校設定科目)についても検討を重ねたい。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月7日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・ICT機器の積極的導入に大きな期待が出来る。場当たりの利用には慎重さが望まれる。 ・主体的・協働的な学習を進める場が必要である。自らの考え方をアウトプットすることで新たな気付きを生み、自分の考え方を整理することができる。中高の教員がその点で研究交流できる場があるとよい。 ・科目横断授業は教師同士の情報交換が大事だと思う。 ・きめ細かい指導がなされており、進学・就職ともいい結果が出ていると思う。 ・アクティブラーニングの推進を更に図っていただきたい。求められる社会人像の形成に役立つと思う。
---

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号	60
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒指導の多くの項目について、生徒、保護者とも9割以上の肯定的な意見をいただいた。特に教育相談については生徒も保護者も評価が伸びており、相談体制がきちんとしていることが理解されてきたのであろう。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・生徒指導委員会・いじめ防止等対策検討会議 ・スクールカウンセラー・各学年会・職員会議 ・生活委員会・MSリーダーズ活動	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 「生徒指導の指針」「いじめ防止基本方針」をもとに、指導の共通理解、共通行動を行い、生徒の自律心、判断力、責任感を育む。	①生徒・保護者・職員への生活安全調査 ②いじめ防止等対策検討会議での評価 ③生徒・保護者による学校評価、身だしなみ指導件数、ネット・SNSによるトラブルの増減等	
② 生徒の状況や情報を常に把握し、職員間で情報を共有しながら日常的な教育相談活動と生徒支援を行う。		
③ 学校生活を通して集団の一員としての自覚と規範意識を高め、他人や社会との関係性を尊重できる個人を育む。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・いじめ対策 年間3回のいじめ・迷惑調査（生活安全調査の実施。いじめ防止等対策検討会議実施。学校安心安全チェック（毎月一回）） ・学年会・職員会議における配慮の必要な生徒の情報交換。スクールカウンセラーの活用。 ・日常生活指導（登校指導、交通指導、巡回指導、情報モラル指導、身だしなみ指導）の実施。 ・SNSトラブル回避の啓蒙活動・人権LHR	①いじめ問題は起きては被害生徒が不登校となる重大事案は起きていないか。 ②生活安全調査の結果を学年会・職員会議で共有できたか。 ③生徒、保護者対象の学校評価数値は昨年度より大幅に改善したか。問題行動の件数の増減。	A (B) C D  A (B) C D  A (B) C D
11 成果・課題	○問題行動、いじめ、人権侵害問題について学年会と協力し、迅速に対応できた。 ○生徒、保護者、学校運営協議会と連携し、校則や身だしなみ基準について見直しを行った。 ▲いじめ問題では迅速な対応はできたが、指導を急ぎすぎ、組織的な対応として反省すべき点があつた。 ▲無断アルバイトやSNSに起因する問題行動があつた。予防活動に力を入れなければならない。	総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案	・特にスマホの使い方、付き合い方に重点を置き、家庭との協力体制でスマホに依存しない生活を啓発していく必要がある。 ・教員間の情報交換を密にして、生徒の困り感や悩みに寄り添い、問題の早期発見、早期対応に一層心がけ、特にいじめ問題については組織的対応をしなければならない。 ・問題行動やいじめ問題の予防に力を入れたい。 ・LGBTに配慮した制服等について生徒会、保護者の意見を取り入れて協議する。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月7日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・「たくましく生きる力を育成する」壁にぶち当たってもくじけない精神力を育成してほしい。（一人で問題を抱え込まないように、他の人に相談する等） ・生徒心得の見直しと、関連して保護者会の理解と地域の協力への共通理解をお願いしたい。 ・いじめに関わるアンケート調査後の対応について、きめ細かく生徒に寄り添って指導をお願いしたい。特にいじめの信号を受け取るアンテナを高くして、早い対応と情報の慎重な取り扱いを期待する。 ・いじめを受けた生徒は当然ながら、いじめた生徒のフォローも検討していただきたい。 ・スマホについては、依存からの脱却も大切であるが、一方で情報取得ツールとして授業における使用も今後検討していかなくてはならない。
---

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

## I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 進路指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	進路に関する情報提供及び進路希望に向けた助言について、生徒及び保護者から全体的に肯定的な意見をいただいている。ただ「生徒の気持ちに沿った進路指導をしている」という項目について、「わからない」という回答もあるので、より家庭との連携や情報発信を進めていく必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒が主体的に将来にわたる進路を設計できるように計画的・組織的に支援する	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部 ・進路検討委員会、小論文等指導委員会、学習指導委員会 ・キャリア推進部、活力ある高校づくりワーキンググループ、教務部、各学年会との連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 生徒が自己の適性や能力を理解し、生きがいをもってライフプランニングができるよう望ましい職業観や人生観を育成する。 ② 高大接続改革に対応し、3年間を見通した進路指導計画(補習、模試面接小論文指導等)を確立して生徒の進路実現を支援する。 ③ 生徒、保護者、職員にとって必要な進路情報を提供するとともに個に応じた支援を行う。	①進路希望調査の結果や説明会等での生徒感想文 ②センター試験出願者数、大学合格実績、公務員合格率等 ③各種調査及び模擬試験等の結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・YCKプロジェクトへの参加・振り返りで自分の在り方や生き方を考え、進路希望を実現する。 ・補習を実施するとともに、面接・小論文指導を早期にスタートし、全教員による個別指導の充実を図る。 ・進路説明会、分野別説明会等を開催し、進路希望の選択・実現を支援する。	①早い時期に進路目標を設定できたか。 ②学力が向上し、情報を分析して、自分の意見をまとめる力はついたか。 ③希望する進路を選択・実現しているか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○就職、公務員試験、大学のAO・推薦入試で、一人の生徒に対して最低一人の指導教員(場合によっては複数の教員)が担当することに加えて、キャリアコーディネーター、地域住民及び地元企業の方々にもご協力いただきながら、地域と連携した進路指導を行うことができた。 ○YCKプロジェクトなどの取り組みを進路実現に活かす生徒が多くなってきている。 ▲基礎学力の向上に課題を抱えている生徒が依然として多い。 ▲具体的な進路に関するイメージが乏しい生徒、3年生になっても自分の具体的な進路が決められない生徒がいる。	
12 来年度に向けての改善方策案	・YCKプロジェクトと教科指導の連携を深めたキャリア教育の充実を図るために、教務部やキャリア推進部、活力ある高校づくりワーキンググループと連携を深め、総合の時間の在り方などカリキュラムの検討を進める。 ・生徒の学力やモチベーション向上を意識した補習の在り方について更に検討を進める。 ・生徒が将来についての進路イメージや自分の適性が明確になることにより、日頃の学習へのモチベーションが、上がるような指導の在り方を、各分掌や学年と連携して検討していく。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月7日

<b>【意見・要望・評価等】</b> ・夢は大切だが、自立した生活のために、現実(社会)を知り、早めに目標を立てさせることが重要である。 ・卒業生が将来地元へ戻ってきた時の受け皿、相談窓口としての役割が学校に期待される。 ・進路意識を高めるために、今後、他地区の進学校の生徒との交流の機会を設定したり、各種セミナーなどに参加させ刺激を受けさせたらどうか。 ・生徒に対して、進路は色々な可能性があることを知らせてほしい。 ・YCKの更なる拡大が今後の進路決定の鍵になる。 ・信頼度も高く良い状態だと思う。 ・生徒それぞれの個にあった進路選択を支援することが重要である。
--

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

## I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校行事、生徒会活動、部活動関連の項目で肯定的な回答をする生徒の割合が増えており、学校における様々な活動に意欲的に取り組む生徒が多くなっている。 ・「学校は、子どもの成長の糧となるような学校行事を行っている」と回答する保護者の割合も90%あり、学校の情報発信の成果が現れている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 互いに支え合う関係を構築し、好ましい人間関係を作り上げ、豊かな人間性と思いやりのある行動力を育てる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・部活動運営委員会、生徒派遣審査委員会、学校徴収金運営委員会 ・IA014001推進委員会、人権教育委員会、いじめ防止等対策検討委員会	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① ホームルーム活動を中心に、生徒会活動、部活動、委員会等の諸活動を通じて、集団としての自覚を深め、望ましい人間関係の形成を支援する。 ② 生徒会活動を活性化させ、生徒会行事の充実を図る。 ③ 部活動に目的意識を持って、自主的・自発的に参加できるように、部活動の活性化を図る。	①② 球技大会及び柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況、アンケートの実施とその結果分析 ③ 部活動予算及び備品請求の配分・部活動参加人数、入部状況・部活動実績・活動場所及び施設使用状況	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・様々な生徒会行事に向けて執行部会等諸会議を開催 ・広報活動により校外へ積極的に情報を提供 ・部紹介、伝達表彰を実施するとともに、部活動費及び備品費を適正に配分し、活動環境を整備	① 球技大会・柏葉祭等の諸行事に達成感を味わわせることができたか。 ② 校外外で行事への取り組みの理解や支持を得ることができたか。 ③ 目的意識を持って、積極的に部活動に参加させることができたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○文化祭の変化が、生徒、来場者のアンケート等からよい方向に流れたと考えられる。しかし、教員、生徒共に負担が増加したため運営方法を見直す必要がある。 ○写真部の全国大会出場に見られるように、生徒が部活動に意欲的に取り組み、多くの成果を挙げることができた。 ○球技大会、柏葉祭など生徒会役員が積極的に参画・運営にした。 ▲学校生活での様々な活動において生徒の自主的な行動を促すことはできているが、主体的な行動を促すことはできていない。現在行っている特別活動の見直し、業務改善を積極的に行い、生徒が主体的に活動できる場、時間的余裕を生み出すことが必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案 特別活動において、生徒会執行部、委員会等の活動がオペレーショナル化し、手段の目的化が起こり、生徒の主体的な活動を促せていない。その原因として生徒の多忙化(特に放課後)があげられる。生徒の多忙化を解消するため、これまで行ってきた活動を一から見直し、生産性の低い活動の改善、廃止等を積極的に行っていく。また、他の分掌との連携を図り、生徒の負担とならないよう調整を行う。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月7日

【意見・要望・評価等】 ・『豊かな心の育成と健康・体力の育成を図る』という目標の具現化にあたってはあくまでも生徒のゆとりと主体的な取り組みが求められる。 ・生徒の主体的について、行事等に生徒がどこまで主体的にできたかを明確にする。 ・生徒たちあるいは教師集団への負担を精査する事が必要かと思われる。(最低でも生徒の時間的余裕を担保させることを検討するべき。生徒の負担ばかりではなく、教員の時間余裕も必要。働き方改革に努めるべき。) ・柏葉祭では吉城高校の魅力を感じる(柏葉祭は高校生らしい発想で頑張りやが伝わる素晴らしい内容であった。) ・総合的に文化系の活動が目立っている。
---

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立吉城高等学校

学校番号 60

## I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。				
2 評価する領域・分野	◇ 健康安全指導				
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・清掃に関しては、保護者・生徒ともアンケート結果も大幅に向上し、生徒のみならず職員の美化意識も向上したと考える。 ・健康管理については、養護教諭を中心に、各検診・検査の事後指導等生徒の健康管理面については常に配慮できている。 ・安全・衛生面では事務部との連携により、早めの対応ができています。 ・防災に関しては、全般に危機管理意識が向上しつつあると考える。				
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 自らが健康で安全な生活を営む能力や態度の育成、環境美化を通じて豊かな心の育成を図る。				
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校保健安全委員会、安全衛生委員会 ・生徒保健委員会、生徒環境委員会、環境衛生日常点検係、防災リーダー				
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標				
① 健康診断や防災教育を通じて、自らが健康で安全な生活を営む能力・態度の育成を図る	①健康診断受診勧告者受診率、命を守る訓練の取り組み状況、災害図上訓練実施前後比較、非常変災時帰宅確認報告率。YCK活動取組。 ②生徒委員会、職員による清掃状況チェック。				
② 日々の清掃活動、マナー教育(公共施設の利用)を通じて、豊かな心の育成を図る。					
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価			
・生徒個人への受診勧告・健康相談、ストレス・インフルエンザに関する昼放送、ストレスコーピング(対処)ポスター掲示等での健康面の啓発活動。保健講話の実施。 ・職員・生徒への体育授業時、部活動時、日常生活における事故防止の事前指導。 ・月1回の職員による安全点検、非構造部材の日常点検。職員・生徒による教室環境衛生点検、行事前清掃点検。環境委員によるゴミの分別収集と季節環境整備(草むしり、落葉清掃)、トイレ使用マナーの励行。保健委員によるトイレ環境衛生点検。生徒係による環境衛生日常点検での教室環境への整備意識づけ。全職員対象網戸設置アンケートの実施。 ・命を守る訓練(4回)。防災リーダーによる災害図上訓練(2学年対象)。 ・災害時備蓄品(全校生徒・職員3日分)の整備。災害対策マニュアルの見直し。	①生徒の健康管理	A	(B)	C	D
	②事故防止	A	(B)	C	D
	③安全管理、環境整備	A	(B)	C	D
	④防災	A	(B)	C	D
11 成果・課題	○健康診断受診勧告者受診率は、養護教諭を中心に、各検診・検査の事後指導等生徒の健康管理面に早めの対応により向上した。また飛騨市と連携した保健講話により命の大切さを学べた。 ○清掃に関しては、生徒・職員による点検、特に行事前清掃点検の事前予告と当日放送連絡することで、生徒のみならず職員の美化意識も向上したと考える。また、全職員による細部にわたる安全点検や非構造部材の日常点検により、事前に危険箇所等への迅速な対応ができた。 ○防災に関しては、2年生防災リーダーによる飛騨市役所危機管理課訪問、げんさい楽座参加を踏まえた2学年対象災害図上訓練を行い、第2回減災力テストの結果が目標値を大きく超えることができた。また、本年度初めて防災士資格取得を全校に案内し、防災リーダーを含む生徒職員合わせて6名が講習会に参加している。 ▲命を守る訓練には全生徒真摯に取り組んでいる。非常変災時帰宅確認報告率は向上した。更に早い段階ですぐメールの登録等の確認を行い、非常変災時に対応できる環境を整える必要がある。 ▲トイレ使用マナーがまだ十分とは言えない。マナー教育が課題である。 ▲災害対策マニュアルの更なる見直しと、生徒職員への周知徹底が急務である。				
12 来年度に向けての改善方策案	・様々な非常変災時に対応するために飛騨市と連携を図りながら、常に最新情報を取り入れた災害図上訓練の実施と命を守る訓練の充実化を図り、生徒職員の危機管理能力を向上させる必要がある。				

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月7日

### 【意見・要望・評価等】

- ・2年生が飛騨市と連携して災害図上訓練を実践したことは良かった。特に防災士資格の取得に向けたモチベーションの高まりは間接的にも全生徒に防災意識の啓蒙啓発活動になったと思われる。
- ・災害時に於けるスマホの利用、命を守る教育・訓練の全校で取り組み、災害に対するリスク管理とそれに対応できる自らの命を守る能力の育成を更に進めるべきと考える。

# 令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立古城高等学校

学校番号 60

## I 自己評価

1 学校教育目標	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ キャリア教育	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・外部人材を活用し、飛騨市等と連携してプロジェクトを推進した。 ・学校評価アンケートによるYCK活動に対する評価について、保護者・生徒の肯定的評価が、昨年度の85.4%・88.8%から今年度は84.1%・93.7%と増え、活動に対する理解が深まっている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム」の実践を通して教育の質を高め、生徒の進路実現に生かす。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・キャリア推進部の中に地域創生キャリアプランナーとキャリア教育コーディネーターを配置し、学校・行政・地域との連携を図る。 ・活動時間やLHRと「総合的な探究(学習)の時間」を併せた運用等について、他の分掌と連携し、指導計画及び指導体制を整備する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」の活動を通して、生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育てる。 ② 「総合的な探究の時間」等を有効活用し、生徒の社会的・職業的自立を促すとともに、社会の中で自らの役割を主体的に果たそうとする態度を育てる。	① YCKプロジェクトへの参加生徒数 ② 生徒の身に付いた能力を評価する指標の活用 ③ ポートフォリオ等の活用	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
【学校設定科目】4活動(62名) 【地域観光】6活動(236名)【地域福祉】6活動(166名) 【地域教育】23活動(411名)【地域防災】4活動(175名) 【授業・総合的な学習の時間など】5活動(919名) 【1年生】605名, 【2年生】466名, 【3年生】324名	① YCKプロジェクトにどれくらいが生徒が参加しているか、適切な振り返りができているか。 ② 生徒の課題解決能力、主体性及び協働して学ぶ態度が育っているか。 ③ ポートフォリオ等を進路実現に活用できたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○生徒募集から振り返りまで、プログラムを適切に実施するためのICT活用 ○YCK活動等の取組を生かした進路実現(国公立大推薦入試の合格者増加) ▲主体的・対話的で深い学びのための授業づくりと実践・評価 ▲探究学習を核としたカリキュラム・マネジメント ▲外部人材や地域資源を生かした学びのデザイン ▲探究学習を軌道に乗せるプロジェクト・ファシリテーション ▲教育ファシリテーションの効果、役割とスキル、活用場面とワークシート	
12 来年度に向けての改善方策案 生徒にとって意義ある学びを継続させるために、学校内外の立場や価値観の違う人たちと方向性を共有することで関係性を高め、地域資源を活かして探究学習の質を高めていく。また、生徒が課題に気付く場面を多く設けたり、答えが1つとは限らないテーマについて対話しながら、互いを認め合う力を伸ばしたりできるように、普段の授業から、生徒一人一人とその集団が成長する場になるようにする。そのためにも「振り返り」を充実させ、どのような発見や学びがあったのか、改善点は何かなどの自己評価に重点を置いた授業改善に取り組む。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月7日

【意見・要望・評価等】 ・現在実践されているYCKの理念は、我々の目指す建学の志そのものとかねがね感じている。 ・社会に出ると課題解決能力が役立つことを生徒に理解してもらい、失敗したことについても探究されるとよい。 ・地域連携活動について、飛騨市が推進している台湾との姉妹都市連携のしくみの中で、生徒と台湾の高校生との姉妹校の提携により、様々な交流による更なるグローバル活動を活発化推進してほしい。 ・教育課程における位置付けについて、『総合的な探究の時間』をうまく活用して運用されてはどうか。 ・振り返りから問題を見つけPDCAが回せるようになるとうよい。 ・「地域課題探究」で取り組んだ「飛騨みんなの博覧会」は、柏葉祭と併せることはできないでしょうか。 ・多くの機会を捉えて活動されているので、将来、地域の課題を解決できる人材が育成されるよう期待する。
---

